

都市再生整備計画 事後評価シート
湯の川地区

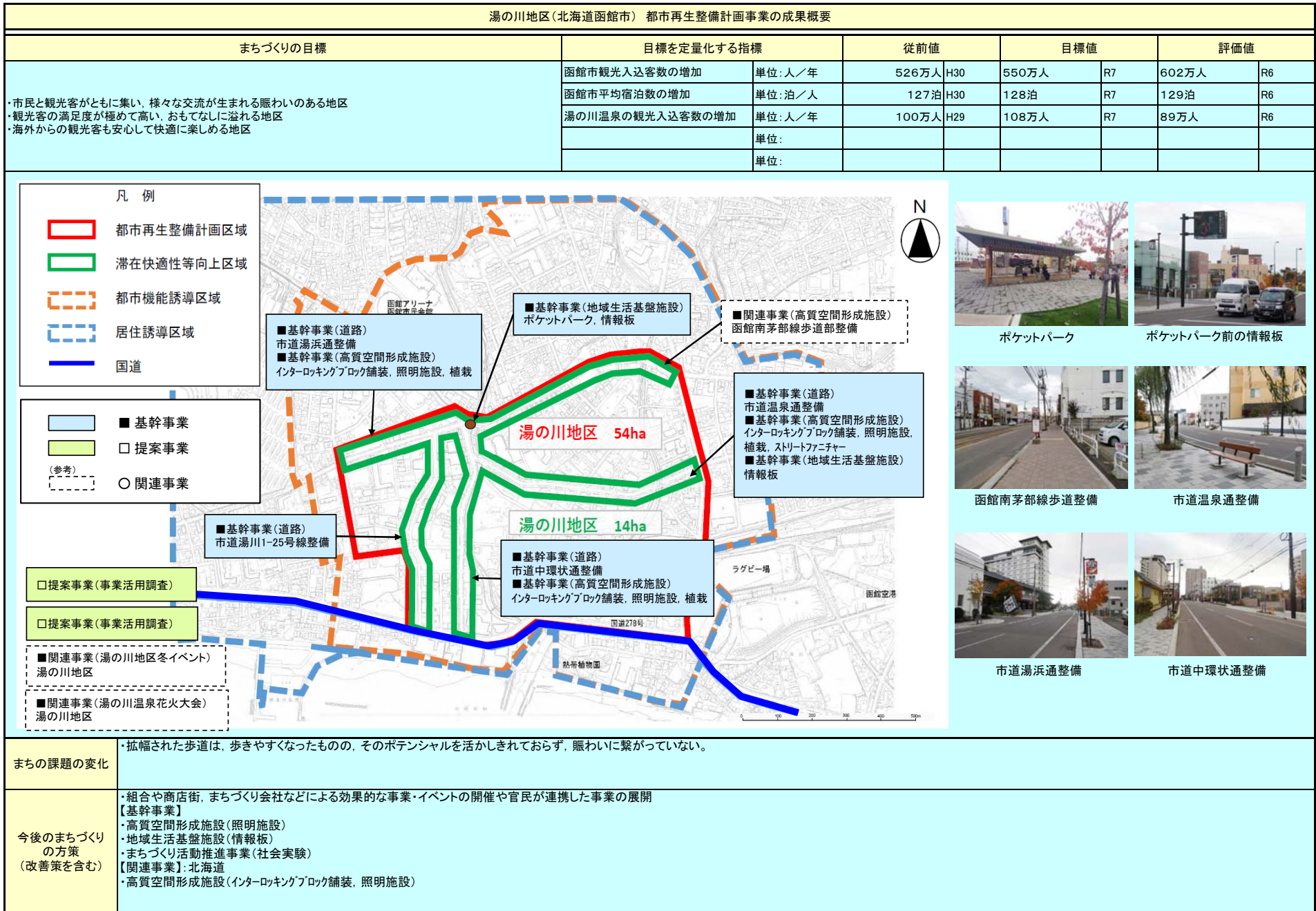
令和8年3月

北海道 函館市

様式2-1 評価結果のまとめ

都道府県名	北海道		市町村名	函館市		地区名	湯の川地区			面積	54ha	
交付期間	令和3年度～令和7年度		事後評価実施時期	令和7年度		交付対象事業費	1054.6百万円	国費率	0.50			
1)事業の実施状況	当初計画に位置づけ、実施した事業		事業名									
			基幹事業	市道(4路線)、高質空間形成施設(インターロッキングブロック舗装、照明施設、植栽)、地域生活基盤施設(ポケットパーク、情報板)								
	当初計画から削除した事業		事業名									
			提案事業	事業活用調査(湯の川地区活性化方策検討調査、湯の川地区事業効果分析調査)								
	新たに追加した事業		事業名				削除/追加の理由			削除/追加による目標、指標、数値目標への影響		
基幹事業			高質空間形成施設(ストリートファニチャー(ベンチ))				照明灯や植栽とあわせて魅力ある道路づくりを進めるため、事業を追加			影響なし		
交付期間の変更		当初	令和3年度～令和7年度		交付期間の変更による事業、指標、数値目標への影響		-					
		変更	なし									
2)都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の達成状況	指標		単位	従前値	目標値	数値		目標	1年以内の	効果発現要因 (総合所見)	フォローアップ 予定時期	
				基準年度	目標年度	モニタリング	評価値	達成度	達成見込み			
	指標1	函館市観光入込客数の増加	人/年	526万人	H30	550万人	R7	602万人	○	あり なし	道路、高質空間形成施設、地域生活基盤施設の整備により、湯の川地区が自然を歩きながら楽しむことができる魅力あるエリアとなり、また、官民が連携したイベントの実施などにより、函館市全体の観光客増加に貢献した。	
	指標2	函館市平均宿泊数の増加	泊/人	127泊	H30	128泊	R7	129泊	○	あり なし	道路、高質空間形成施設、地域生活基盤施設の整備により、湯の川地区が自然を歩きながら楽しむことができる魅力あるエリアとなり、また、官民が連携したイベントの実施などにより、函館市全体の観光客増加に伴う平均宿泊数の増加に貢献した。	
指標3	湯の川温泉の観光入込客数の増加	人/年	100万人	H29	108万人	R7	89万人	△	あり なし ●	北海道経済部観光振興課で公表している統計資料では、観光入込客数の増加はなかったが、道路、高質空間形成施設、地域生活基盤施設の整備により、湯の川地区の歩行者数は増加しており、一定の効果があったと認められる。	令和8年11月	
3)その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現状況	指標		単位	従前値	目標値	数値		目標	1年以内の	効果発現要因 (総合所見)	フォローアップ 予定時期	
				基準年度	目標年度	モニタリング	評価値	達成度	達成見込み			
その他の数値指標1	市道中環状通の歩行者数 市道湯浜通の歩行者数 市道温泉通の歩行者数 市道湯川1-25号線の歩行者数	人/年	535人 279人 248人 181人	R3			987人 431人 320人 447人			道路、高質空間形成施設、地域生活基盤施設の整備により、湯の川地区が自然を歩きながら楽しめる魅力あるエリアとなったため、湯の川地区の主要道路である4路線の歩行者数増加に貢献した。		
4)定性的な効果発現状況												
5)実施過程の評価	実施内容			実施状況				今後の対応方針等				
	モニタリング	なし		都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった								
	官民連携による取組	「温泉旅館協同組合」「商店街振興組合」等の団体により、湯の川温泉花火大会や冬のイルミネーションイベントを開催した。また、「函館沿道花いっぱい道」として沿道美化活動(ボランティアサポートプログラム)を実施した。		都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった				● 今後も地域と一体となった取り組みを継続し、賑わいあるまちづくりに向けて取り組んでいく。				
	持続的なまちづくり体制の構築	なし		都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった								

様式2-2 地区の概要



都市再生整備計画 事後評価シート (添付書類)

(1) 成果の評価

- 添付様式1-① 都市再生整備計画に記載した目標の変更の有無
- 添付様式1-② 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況(完成状況)
- 添付様式2-① 都市再生整備計画に記載した数値目標の達成状況
- 添付様式2-② その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)により計測される効果発現の計測
- 添付様式2-参考記述 定量的に表現できない定性的な効果発現状況

(2) 実施過程の評価

- 添付様式3-① モニタリングの実施状況
- 添付様式3-② 官民連携による取組みの実施状況
- 添付様式3-③ 持続的なまちづくり体制の構築状況

(3) 効果発現要因の整理

- 添付様式4-① 効果発現要因の整理にかかる検討体制
- 添付様式4-② 数値目標を達成した指標にかかる効果発現要因の整理
- 添付様式4-③ 数値目標を達成できなかった指標にかかる効果発現要因の整理

(4) 今後のまちづくり方策の作成

- 添付様式5-① 今後のまちづくり方策にかかる検討体制
- 添付様式5-② まちの課題の変化
- 添付様式5-③ 今後のまちづくり方策
- 添付様式5-参考記述 今後のまちづくり方策に関するその他の意見
- 添付様式5-④ 目標を定量化する指標にかかるフォローアップ計画
- 添付様式6 当該地区のまちづくり経験の次期計画や他地区への活かし方
- 添付様式6-参考記述 今後、都市再生整備計画事業の活用予定、又は事後評価を予定している地区の名称(当該地区の次期計画も含む)

(5) 事後評価原案の公表

- 添付様式7 事後評価原案の公表

(6) 評価委員会の審議

- 添付様式8 評価委員会の審議

(7) 有識者からの意見聴取

- 添付様式9 有識者からの意見聴取

(1) 成果の評価

添付様式1-① 都市再生整備計画に記載した目標の変更の有無

	変更		変更前	変更後	変更理由
	あり	なし			
A. まちづくりの目標		●	-	-	-
B. 目標を定量化する指標		●	-	-	-
C. 目標値		●	-	-	-
D. その他()		●	-	-	-

添付様式1-② 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況(事業の追加・削除を含む)

基幹事業									
事業	事業箇所名	当初計画		最終変更計画		当初計画からの 変更の概要 ※1 (事業の削除・追加を含む)	都市再生整備計画に記載した まちづくり目標、目標を定量化する指標、数値目標等への影響	事後評価時の完成状況	
		事業費	事業内容	事業費	事業内容			完成	完成見込み
道路	市道中環状通	32	L=550m	32	L=550m	変更なし	影響なし	●	
	市道湯浜通	18	L=340m	12	L=340m	実施設計により内容を精査したため 事業費減	影響なし	●	
	市道温泉通	57	L=650m	75	L=650m	実施設計により内容を精査したため 事業費増	影響なし	●	
	市道湯川1-25号線	36	L=520m	15	L=520m	実施設計により内容を精査したため 事業費減	影響なし	●	
高質空間形成 施設	インターロッキングブロック舗装	685	A=13,000㎡	640	A=8,830㎡	実施設計により内容を精査したため 事業費及び整備面積の減	影響なし	●	
	照明施設	248	124基	180	174基	実施設計により内容を精査したため 事業費減、整備基数の増	影響なし	●	
	植栽	55	高木130本・低木1200本	44	高木147本・低木600本	実施設計により内容を精査したため 事業費減、整備本数の減	影響なし	●	
	ストリートファニチャー(ベンチ)	0	0基	2	6基	照明灯や植栽とあわせて魅力ある 道路づくりを進めるため、事業を追 加	影響なし	●	
地域生活基盤 施設	ポケットパーク	27	370㎡	31	370㎡	実施設計により内容を精査したため 事業費増	影響なし	●	
	情報板	9	11基	12	6基	実施設計により内容を精査したため 事業費増、整備基数の減	影響なし	●	

※1: 事業費の大幅変更、新規追加がある場合は理由を明記のこと

添付様式1-② 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況(事業の追加・削除を含む)

基幹事業									
事業	事業箇所名	当初計画		最終変更計画		当初計画からの 変更の概要 ※1 (事業の削除・追加を含む)	都市再生整備計画に記載した まちづくり目標、目標を定量化する指標、数値目標等への影響	事後評価時の完成状況	
		事業費	事業内容	事業費	事業内容			完成	完成見込み
地区再開発事業									
バリアフリー環境整備事業									
優良建築物等整備事業									
住宅市街地総合整備事業									
街なみ環境整備事業									
住宅地区改良事業等									
都心共同住宅供給事業									
公営住宅等整備									
都市再生住宅等整備									
防災街区整備事業									

※1: 事業費の大幅変更、新規追加がある場合は理由を明記のこと

提案事業									
事業	細項目	当初計画		最終変更計画		当初計画からの 変更の概要 ※1 (事業の削除・追加を含む)	都市再生整備計画に記載した まちづくり目標、目標を定量化する指標、数値目標等への影響	事後評価時の完成状況	
		事業費	事業内容	事業費	事業内容			完成	完成見込み
地域創造 支援事業									
事業活用調査	湯の川地区活性化方策検討調査	10		9		事業内容の精査により事業費減	影響なし	●	
	湯の川地区事業効果分析調査	5		3		事業内容の精査により事業費減	影響なし	●	
まちづくり 活動推進事業									

※1: 事業費の大幅変更、新規追加がある場合は理由を明記のこと

(参考) 関連事業									
事業	細項目	事業箇所名	事業費		事業期間		進捗状況及び所見	備考	
			当初計画	最終変更 計画	当初計画	最終変更計画			
湯の川地区冬イベント		湯の川地区	110	110	令和2年度～令和7年度	令和2年度～令和7年度	毎年11月～2月に実施されている冬のイルミネーションイベントで、この時期だけのライトアップされた足湯を楽しむことができる。	実施主体: 湯の川冬の灯り実行委員会	
湯の川温泉花火大会		湯の川地区	8	8	令和2年度～令和7年度	令和2年度～令和7年度	毎年8月中旬に実施されている花火大会で、函館の納涼まつりとして親しまれている。	実施主体: 函館湯の川温泉花火大会実行委員会	
高質空間形成施設		函館南茅部線歩道部	0	360	—	令和6年度～令和7年度	令和8年3月に竣工、令和8年度以降も引き続き、事業を実施予定となっている。	事業主体: 北海道	

添付様式2-① 都市再生整備計画に記載した数値目標の達成状況

指標	単位	データの計測手法と評価値の求め方 (時期、場所、実施主体、対象、具体手法等)	(参考)※1 計画以前の値 (ア)		従前値 (イ)		目標値 (ウ)		数値(エ)		目標達成度※2		1年以内の達成見込みの有無	
				基準年度		基準年度		目標年度					あり	なし
指標1	函館市観光入込客数	人/年	函館市観光部観光総務課が公表している統計資料(例年6月公表)	456万人	H20	526万人	H30	550万人	R7	モニタリング		モニタリング		
										事後評価	● 確定見込み	602万人	事後評価	○
指標2	函館市平均宿泊数	泊/人	函館市観光部観光総務課が公表している統計資料(例年7月公表)	-	-	127泊	H30	128泊	R7	モニタリング		モニタリング		
										事後評価	● 確定見込み	129泊	事後評価	○
指標3	湯の川温泉の観光入込み客数	人/年	北海道経済部観光振興課で公表している統計資料	116万人	H20	100万人	H29	108万人	R7	モニタリング		モニタリング		●
										事後評価	● 確定見込み	89万人	事後評価	△
指標4										モニタリング		モニタリング		
										事後評価	● 確定見込み		事後評価	
指標5										モニタリング		モニタリング		
										事後評価	● 確定見込み		事後評価	

指標	目標達成度○△×の理由 (達成見込み「あり」とした場合、その理由も含む)	その他特記事項 (指標計測上の問題点、課題等)
指標1	○:道路(市道中環状通, 市道湯浜通, 市道温泉通, 市道湯川1-25号線), 高質空間形成施設(インターロッキングブロック舗装, 照明施設, 植栽, ストリートファニチャー(ベンチ)), 地域生活基盤施設(ポケットパーク, 情報板)の整備により, 湯の川地区が自然を歩きながら楽しむことができる魅力あるエリアとなったため, 函館市全体の観光客が増加し, 目標が達成された。	
指標2	○:道路(市道中環状通, 市道湯浜通, 市道温泉通, 市道湯川1-25号線), 高質空間形成施設(インターロッキングブロック舗装, 照明施設, 植栽, ストリートファニチャー(ベンチ)), 地域生活基盤施設(ポケットパーク, 情報板)の整備により, 湯の川地区が自然を歩きながら楽しむことができる魅力あるエリアとなったため, 函館市全体の観光客が増加し, それに伴い, 宿泊客も増加し, 目標が達成された。	
指標3	△:従前値100万人から評価値89万人と減少し, 目標値に達していない。これは, 令和2年度以降のコロナ禍による観光客減少の影響が回復していないことが原因として考えられる。	

※1 計画以前の値 とは、都市再生整備計画の作成より以前(概ね10年程度前)の値のことをいう。

※2 目標達成度の記入方法

○:評価値が目標値を上回った場合

△:評価値が目標値には達していないものの、近年の傾向よりは改善していると認められる場合

×:評価値が目標値に達しておらず、かつ近年の傾向よりも改善がみられない場合

添付様式2-② その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現の計測

指標		データの計測手法と評価値の求め方 (時期、場所、実施主体、対象、具体手法等)	(参考)※1 計画以前の値 (ア)		従前値 (イ)		数値(ウ)			本指標を取り上げる理由	その他特記事項 (指標計測上の問題点、課題等)	
			単位	基準年度	基準年度	基準年度	基準年度	基準年度	基準年度			
その他の数値指標1	市道中環状通の歩行者数 市道湯浜通の歩行者数 市道温泉通の歩行者数 市道湯川1-25号線の歩行者数	人	各路線の7時～19時(12時間)の歩行者数	-	-	535人 279人 248人 181人	R3	モニタリング			湯の川地区の主要道路である4路線の歩行者数を指標とし、湯の川温泉の観光入込客数増加の目標値を補完するため設定した。	指標1～3を補完して地区内の回遊性、利便性向上を説明する。
								事後評価	確定 ●	987人 431人 320人 447人		
その他の数値指標2	-							モニタリング				
								事後評価	確定			
その他の数値指標3	-							モニタリング				
								事後評価	確定			

※1 計画以前の値 とは、都市再生整備計画の作成より以前(概ね10年程度前)の値のことをいう。

添付様式2-参考記述 定量的に表現できない定性的な効果発現状況

○道路(市道中環状通, 市道湯浜通, 市道温泉通, 市道湯川1-25号線), 高質空間形成施設(インターロッキングブロック舗装, 照明施設, 植栽, ストリートファニチャー(ベンチ))の整備により, 湯の川地区の入込客数増加に寄与している。湯の川温泉街全体が明るくなり, 夜でも安心して歩けるようになった。
 ○まちの歩きやすさに繋がったことで, 花火大会の入込客数増加に寄与している。また, 街路灯とイルミネーションなどが整備前と比べて綺麗になったと市民や観光客からも好評である。
 ○地域生活基盤施設(ポケットパーク)の整備により, 湯の川周辺における体験観光の充実に寄与している。

(2) 実施過程の評価

・本様式は、都市再生整備計画への記載の有無に関わらず、実施した事実がある場合には必ず記載すること。

添付様式3-① モニタリングの実施状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	実施状況	実施頻度・実施時期・実施結果		今後の対応方針等
—	予定どおり実施した	—	—	—
	予定はなかったが実施した			
	予定したが実施できなかった			
—	予定どおり実施した	—	—	—
	予定はなかったが実施した			
	予定したが実施できなかった			

添付様式3-② 官民連携による取組の実施状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	実施状況	実施頻度・実施時期・実施結果		今後の対応方針等
「温泉旅館協同組合」「商店街振興組合」等の団体により、湯の川温泉花火大会を開催	予定どおり実施した	●	【実施頻度】毎年度1回 【実施時期】毎年度8月 【実施結果】指標3(湯の川温泉の観光入込客数の増加)を補完する湯の川地区の取り組みを確認することができた。	今後も地域と一体となった取り組みを継続し、賑わいあるまちづくりに向けて取り組んでいく。
	予定はなかったが実施した			
	予定したが実施できなかった			
「温泉旅館協同組合」「商店街振興組合」等の団体により、冬のイルミネーションイベントを開催	予定どおり実施した	●	【実施頻度】毎年度1回 【実施時期】毎年度11月～2月 【実施結果】指標3(湯の川温泉の観光入込客数の増加)を補完する湯の川地区の取り組みを確認することができた。	今後も地域と一体となった取り組みを継続し、賑わいあるまちづくりに向けて取り組んでいく。
	予定はなかったが実施した			
	予定したが実施できなかった			
「函館沿道花いっぱい道」として沿道美化活動(ボランティアサポートプログラム)を実施	予定どおり実施した	●	【実施頻度】通年 【実施時期】維持活動を6月～8月の3か月間に実施 【実施結果】指標3(湯の川温泉の観光入込客数の増加)を補完する湯の川地区の取り組みを確認することができた。	今後も地域と一体となった取り組みを継続し、おもてなしにあふれるまちづくりに向けて取り組んでいく。
	予定はなかったが実施した			
	予定したが実施できなかった			

添付様式3-③ 持続的なまちづくり体制の構築状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	構築状況	実施頻度・実施時期・実施結果		今後の対応方針等
		i. 体制構築に向けた取組内容	ii. まちづくり組織名:組織の概要	
—	予定どおり実施した	—	—	—
	予定はなかったが実施した			
	予定したが実施できなかった			
—	予定どおり実施した	—	—	—
	予定はなかったが実施した			
	予定したが実施できなかった			

(3) 効果発現要因の整理

添付様式4-① 効果発現要因の整理にかかる検討体制

名称等	検討メンバー	実施時期	担当部署
都市再生整備計画事業に係る庁内会議	関係各課(土木部道路建設課, 観光部観光推進課, 都市建設部都市計画課)	第1回 令和7年12月12日	土木部道路建設課

添付様式4-② 数値目標を達成した指標にかかる効果発現要因の整理

指標の種類		指標1		指標2		その他の数値指標1		-	
指標名		函館市観光入込客数		函館市平均宿泊数		市道中環状通の歩行者数 市道湯浜通の歩行者数 市道温泉通の歩行者数 市道湯川1-25号線の歩行者数			
種別	事業名・箇所名	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見
基幹事業	道路(市道中環状通)	○	道路, 高質空間形成施設, 地域生活基盤施設の整備により, 湯の川地区が自然を歩きながら楽しむことができる魅力あるエリアとなり, また, 官民が連携したイベントの実施などにより, 函館市全体の観光客増加に貢献した。	○	道路, 高質空間形成施設, 地域生活基盤施設の整備により, 湯の川地区が自然を歩きながら楽しむことができる魅力あるエリアとなり, また, 官民が連携したイベントの実施などにより, 函館市全体の観光客増加に伴う平均宿泊数増加に貢献した。	◎	道路, 高質空間形成施設, 地域生活基盤施設の整備により, 湯の川地区が自然を歩きながら楽しむことができる魅力あるエリアとなったため, 湯の川地区の主要道路である4路線の歩行者数増加に貢献した。		
	道路(市道湯浜通)	○		○		◎			
	道路(市道温泉通)	○		○		◎			
	道路(市道湯川1-25号線)	○		○		◎			
	高質空間形成施設(インターロックンブロック舗装)	○		○		◎			
	高質空間形成施設(照明施設)	○		○		◎			
	高質空間形成施設(植栽)	○		○		◎			
	高質空間形成施設(ストリートファニチャー(ベンチ))	○		○		◎			
	地域生活基盤施設(ポケットパーク)	○		○		◎			
地域生活基盤施設(情報板)	○	○	◎						
提案事業	湯の川地区活性化方策検討調査	-		-		-			
	湯の川地区事業効果分析調査	-		-		-			
関連事業	湯の川地区冬イベント(湯の川地区)	◎		◎		-			
	湯の川温泉花火大会(湯の川地区)	◎		◎		-			
	高質空間形成施設(函館南茅部線歩道部)	○		○		◎			

※指標改善への貢献度

◎: 事業が効果を発揮し、指標の改善に直接的に貢献した。

○: 事業が効果を発揮し、指標の改善に間接的に貢献した。

△: 事業が効果を発揮することを期待したが、指標の改善に貢献しなかった。

-: 事業と指標の間には、もともと関係がないことが明確なので、評価できない。

今後の活用	今後も湯の川地区の来訪促進を図るとともに、地域の組合等の団体と連携し、魅力あるエリアの創出に取り組んでいく。	今後も湯の川地区の来訪促進を図るとともに、地域の組合等の団体と連携し、魅力あるエリアの創出に取り組んでいく。	湯の川地区のさらなるまちあるきを促進するため、関連事業(函館南茅部線歩道部)と連携しながら、回遊しやすい環境を整える必要がある。
-------	--	--	--

添付様式4-③ 数値目標を達成できなかった指標にかかる効果発現要因の整理

指標の種別		指標3			—			—			—		
指標名		湯の川温泉の観光入込み客数											
種別	事業名・箇所名	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類
基幹事業	道路(市道中環状通)	△	北海道経済部観光振興課で公表している統計資料では、観光入込客数の増加にいたらなかったが、道路、高質空間形成施設、地域生活基盤施設の整備により、湯の川地区の歩行者数は増加しており、一定の効果をあげられたと認められる。	Ⅲ									
	道路(市道湯浜通)	△											
	道路(市道温泉通)	△											
	道路(市道湯川1-25号線)	△											
	高質空間形成施設(インターロッキングブロック舗装)	△											
	高質空間形成施設(照明施設)	△											
	高質空間形成施設(植栽)	△											
	高質空間形成施設(ストリートファニチャー(ベンチ))	△											
	地域生活基盤施設(ポケットパーク)	△											
	地域生活基盤施設(情報板)	△											
提案事業	湯の川地区活性化方策検討調査	—											
	湯の川地区事業効果分析調査	—											
関連事業	湯の川地区冬イベント	△											
	湯の川温泉花火大会	△											
	高質空間形成施設	△											

※目標未達成への影響度

- ××: 事業が効果を発揮せず、指標の目標未達成の直接的な原因となった。
- ×: 事業が効果を発揮せず、指標の目標未達成の間接的な原因となった。
- △: 数値目標が達成できなかった中でも、ある程度の効果をあげたと思われる。
- : 事業と指標の間には、もともと関係がないことが明確なので、評価できない。

※要因の分類

- 分類Ⅰ: 内的な要因で、予見が可能なお要因。
- 分類Ⅱ: 外的な要因で、予見が可能なお要因。
- 分類Ⅲ: 外的な要因で、予見が不可能なお要因。
- 分類Ⅳ: 内的な要因で、予見が不可能なお要因。

改善の方針 (記入は必須)	<p>・湯の川地区は、団体から個人への旅行形態の変化などにより、入込客数は減少傾向であるが、引き続き、地区内の道路整備のほか、照明灯や植栽により魅力ある道路づくりやイベントを通して、観光客と市民が集うことで地区の活性化を促し、安全で魅力あるまちづくりを推進していく。</p>			
------------------	---	--	--	--

(4) 今後のまちづくり方策の作成

添付様式5-① 今後のまちづくり方策にかかる検討体制

名称等	検討メンバー	実施時期	担当部署
都市再生整備計画事業に係る庁内会議	関係各課(土木部道路建設課, 観光部観光推進課, 都市建設部都市計画課)	第1回 令和7年12月12日	土木部道路建設課

添付様式5-② まちの課題の変化

事業前の課題 都市再生整備計画に記載 したまちの課題	達成されたこと(課題の改善状況)	残された未解決の課題	事業によって発生した 新たな課題
地区内の道路は、歩道のインターロッキングブロックが老朽化し、また波打っており、歩きにくい。	高質空間形成施設(インターロッキングブロック舗装)の整備により、市道の歩道拡幅や舗装のグレードアップを行い、まちあるきを行う観光客が、段差が少なく、歩きながら楽しめるような歩行者空間を創出した。	・年間30万人が利用する函館アリーナの利用者を、商店街や周辺観光施設へ誘導できていない。	・拡幅された歩道は、歩きやすくなったものの、そのポテンシャルを活かしきれておらず、賑わいに繋がっていない。
地区内の道路は、道路照明灯がまばらで薄暗く、観光客が安心して歩くことができない。	高質空間形成施設(照明施設, 情報板)の整備により、照明灯や多言語化した情報板を設置し、夜間でも足下が明るい歩道で、海外からの観光客も安心して快適に歩くことができる歩行者空間を創出した。	・市道湯川1-25号線の照明施設整備事業が未完了となっている。	
街路樹のクロマツ等は、一部が枯木となっており、街のロケーションを活かしきれていない。	高質空間形成施設(植栽)の整備により、景観に配慮した道路整備や街路樹の植栽を整備し、隣接する川や街路樹などの自然を歩きながら楽しめるような歩行者空間を創出した。	-	

これを受けて、成果の持続にかかる今後のまちづくり方策を添付様式5-③A欄に記入します。

これを受けて、改善策にかかる今後のまちづくり方策を添付様式5-③B欄に記入します。

添付様式5-③ 今後のまちづくり方策

A欄 効果を持続させるため に行う方策	効果の持続を図る事項	効果を持続させるための基本的な考え方	想定される事業
	市民と観光客がともに集い、様々な交流が生まれる賑わいのあるエリアを創出	・道路や高質空間形成施設、地域生活基盤施設のほか、今後は、ソフト事業の展開による賑わいのあるエリアを創出していく。 ・賑わいのあるエリアを創出していくためには、組合や商店街、まちづくり会社などが主体となって実施するよう必要な支援を行う。	・組合や商店街、まちづくり会社などによる効果的な事業・イベントの開催や官民が連携した事業の展開

B欄 改善策	改善する事項	改善策の基本的な考え方	想定される事業
	市民と観光客がともに集い、様々な交流が生まれる賑わいのある地区	・歩きやすくなった歩道のポテンシャルを活かすため、宿泊施設の利用者のほか、函館アリーナや函館競馬場などの周辺施設を利用した市民が、まちあるきを楽しめる魅力あるエリアを創出する。	【基幹事業】 ・高質空間形成施設(照明施設) ・地域生活基盤施設(情報板) ・まちづくり活動推進事業(社会実験) 【関連事業】 :北海道 ・高質空間形成施設(インターロッキングブロック舗装, 照明施設)
・未達成の目標を達成するための改善策 ・未解決の課題を解消するための改善策 ・新たに発生した課題に対する改善策			

フォローアップ又は次期計画等において実施する改善策を記入します。

なるべく具体的に記入して下さい。

■様式5-③の記入にあたっては、下記の事項を再確認して、これらの検討結果を踏まえて記載して下さい。(チェック欄)

<input type="checkbox"/>	交付金を活用するきっかけとなったまちづくりの課題(都市再生整備計画)を再確認した。
<input type="checkbox"/>	事業の実施過程の評価(添付様式3)を再確認した。
<input type="checkbox"/>	数値目標を達成した指標にかかる効果の持続・活用(添付様式4-②)を再確認した。
<input type="checkbox"/>	数値目標を達成できなかった指標にかかる改善の方針(添付様式4-③)を再確認した。
<input type="checkbox"/>	残された課題や新たな課題(添付様式5-②)を再確認した。

添付様式5-参考記述 今後のまちづくり方策に関するその他の意見

函館市観光部においても、令和7年度から「湯の川温泉エリアプロモーション事業」を実施し、湯の川温泉エリア独自の魅力や楽しみ方を発掘することにより、湯の川のリブランディングや旅行需要喚起、地域消費の拡大を図る。

添付様式5-④ 目標を定量化する指標にかかるフォローアップ計画

・フォローアップの要否に関わらず、添付様式2-①、2-②に記載した全ての指標について記入して下さい。
 ・従前値、目標値、評価値、達成度、1年以内の達成見込みは添付様式2-①、2-②から転記して下さい。

・評価値が「見込み」の全ての指標、目標達成度が△又は×の指標、1年以内の達成見込み「あり」の指標について、確定値を求めるためのフォローアップ計画を記入して下さい。

指標		単位	従前値		目標値		評価値		目標達成度	1年以内の達成見込みの有無	フォローアップ計画		
			年度	年度	年度	年度	評価値	評価値			予定時期	計測方法	その他特記事項
指標1	函館市観光入込客数	人/年	526万人	H30	550万人	R7	確定 ●	602万人	○	あり			
指標2	函館市平均宿泊数	泊/人	127泊	H30	128泊	R7	確定 ●	129泊	○	あり			
指標3	湯の川温泉の観光入込客数	人/年	100万人	H29	108万人	R7	確定 ●	89万人	△	あり ●	令和8年11月	北海道経済部観光振興課で公表している統計資料	
指標4							確定			あり			
指標5							見込み			なし			
その他の数値指標1	市道中環状通の歩行者数	人	535	R3	/	/	確定 ●	987	/	/	/	/	/
	市道湯浜通の歩行者数		279				見込み	431					
	市道温泉通の歩行者数		248				見込み	320					
	市道湯川1-25号線の歩行者数		181				見込み	447					
その他の数値指標2						確定							
その他の数値指標3						見込み							

添付様式6 当該地区のまちづくり経験の次期計画や他地区への活かし方

・下表の点について、特筆すべき事項を記入します。

項目		要因分析	次期計画や他地区への活かし方
数値目標 ・成果の達成	うまくいった点	指標1及び指標2については、これまでの傾向を踏まえた目標を設定し、湯の川地区の整備などによる函館市全体の観光客数増加により、目標値を上回ることができた。	目標指標の設定は、毎年公表されている統計資料を参考にその傾向を的確に捉えることが重要である。 また、事業効果を十分に検討し、適正に確認できる指標とする必要がある。
	うまくいかなかった点	指標3については、従前値より前から湯の川温泉の観光入込客数は減少傾向にある中で、増加を目標値としたが、コロナ禍による観光客数減少の影響もあり、達成が困難な目標値となっていた。	
数値目標と 目標・事業との 整合性等	うまくいった点	—	
	うまくいかなかった点	—	
住民参加 ・情報公開	うまくいった点	—	
	うまくいかなかった点	—	
PDCAによる事業 ・評価の進め方	うまくいった点	—	
	うまくいかなかった点	—	
その他	うまくいった点	—	
	うまくいかなかった点	—	

添付様式6—参考記述 今後、都市再生整備計画事業の活用予定、又は事後評価を予定している地区の名称(当該地区の次期計画も含む)

- ・都市再生整備計画 湯の川地区(第2期)
- ・湯の川地区(第2期) まちなかウォークブル推進事業(社会資本整備総合交付金)

(5) 事後評価原案の公表

添付様式7 事後評価原案の公表

公表方法	具体的方法	公表期間・公表日	意見受付期間	意見の受付方法	担当部署
インターネット	函館市土木部道路建設課 ホームページに掲載	令和8年1月13日～1月27日	令和8年1月13日～1月27日	<ul style="list-style-type: none"> ・郵便 ・電子メール ・FAX ・直接持参 	土木部道路建設課 街路担当
広報掲載・回覧・個別配布					
説明会・ワークショップ					
その他					

住民の意見	・意見なし。
-------	--------

(6) 評価委員会の審議

添付様式8 評価委員会の審議

委員構成		実施時期	担当部署	委員会の設置根拠	委員会の母体組織
学識経験のある委員	北海道教育大学函館校 准教授 奥平 理(委員長)	令和8年2月24日	土木部道路建設課 街路担当	湯の川地区都市再生整備計画事業事後評価委員会設置要綱の制定による設置	独自に設置
その他の委員	函館商工会議所 事務局長 竹内 正幸 函館湯の川温泉旅館協同組合 事務局長 川崎 研司 湯川商店街振興組合 理事長 庄司 信幸 湯川温泉商工親和会 会長 加藤 隆司				

審議事項※1		委員会の意見
事後評価手続き等にかかる審議	方法書	・特になし。
	成果の評価	・『指標1 函館市観光入込客数の増加』及び『指標2 函館市平均宿泊数の増加』について、道路、高質空間形成施設、地域生活基盤施設の整備や官民が連携したイベントの実施などにより、観光客増加及び宿泊数の増加に貢献したことを、統計資料のデータや意見(湯の川地区が歩きながら自然を楽しむことができる魅力あるエリアとなった など)をもとに効果発現状況として整理した。この評価結果について、了承された。 ・『指標3 湯の川温泉の観光入込客数の増加』について、目標値108万人に対し、評価値が89万人と目標値に達していないが、その他の数値指標として計測した4路線の歩行者交通量が増加傾向と一定の効果が見られたため、目標達成度は△として整理した。この評価結果について、コロナ禍の影響が回復途中であることや近年の旅行形態が団体旅行から個人旅行にシフトしていることなど外的要因の影響もあると考えられるが、夜でも明るく歩きやすい道路になり歩く人が増えたことなどから、整備による一定の効果は得られたと理解を得た。
	実施過程の評価	・実施過程の評価について、了承された。
	効果発現要因の整理	・効果発現要因の整理について、適切に行われたと確認された。
	事後評価原案の公表の妥当性	・事後評価原案の公表の妥当性について、市民に対して適正に公表されたことが確認された。
	その他	・特になし。
今後のまちづくりについて審議	事後評価の手続きは妥当に進められたか、委員会の確認	・事後評価の手続きについて、妥当に進められたことが確認された。
	今後のまちづくり方策の作成	・今後のまちづくり方策の作成について、妥当であると確認された。また、以下の意見が出され、今後の参考にすることとした。 ・湯の川温泉電停から函館アリーナまでの未整備区間も舗装や街路灯などを整備することで、湯の川地区での周遊を促進し、まち全体に一体感が出てくるのではないかと。 ・インバウンド対応としてユニバーサルデザインを意識した情報板の設置や災害時の避難でも踏かない平坦な歩道整備を進めることが重要である。
	フォローアップ	・フォローアップについて、妥当であると確認された。
	その他	・特になし。
その他	今後のまちづくり方策は妥当か、委員会の確認	・今後のまちづくり方策について、妥当であると確認された。
その他		・湯の川地区の長期的なまちづくり方策として、集客の見込める新たな施設を既存の核である湯倉神社と熱帯植物園の間に誘致する必要があると意見が出された。短期的なまちづくり方策としては、湯倉神社と熱帯植物園のブラッシュアップ、商店街の空き店舗を少しでも減らしてお客さんを増やす必要があると意見が出された。

※1 審議事項の詳細は「まちづくり交付金評価委員会チェックシート」を参考にしてください。